令和５年度　校長メッセージ（２）

令和五年度　第十九回　東京都立翔陽高等学校　入学式式辞

色鮮やかな若葉が美しい季節を迎えた今日の佳き日、令和五年度東京都立翔陽高等学校第十九回入学式を挙行できますことは、教職員一同この上ない喜びであり、心よりお慶び申し上げます。本校を代表し、深く感謝申し上げます。ご多用の中、ご臨席いただきました保護者の皆様、お子様のご入学、誠におめでとうございます。

翔陽高校の制服を着て本校の校門をくぐった第十九期生となる新入生の皆さん、入学おめでとうございます。翔陽高校は、皆さんを心から歓迎いたします。新型コロナウイルス感染症の影響で、皆さんの受験勉強は、保護者の皆様も含めて大変な毎日だったことと思いますが、皆さんの努力が実って、晴れて今日から翔陽高生となります。充実した高校生活の出発にあたり、心も新たに自分の目標、特に何に力を入れようかなと皆さんは考えておられることと思います。

本校は、平成十七年に普通科単位制高等学校として開校し、「自学・自立・自信」をモットーに、探究的な学び・キャリア教育・国際理解教育・豊かな人間性の育成に重点を置いた教育活動を展開し、探究学習の実践を通して、国際社会で活躍できる、創造性や対人能力を身に付けた生徒を育成することをスクール・ミッションとして掲げています。本校は東京都教育委員会より「進学指導研究校」、「英語教育研究推進校」、「国際交流リーディング校」、「海外学校間交流推進校」等の指定を受けています。また、「デジタル・リーディング・ハイスクール」として一人一台端末の活用を含めＩＣＴの有効活用を進めるなど、特色ある教育課程のもと、基礎学力の定着とともに学力の伸長を図り、生徒の進路希望の実現に全力で取り組んでいる学校です。また、広い校地と恵まれた施設や自然環境を活かし、部活動や学校行事が盛んで元気あふれる生徒の笑顔が美しい、今年度創立十九年目を迎える学校です。

本校の教育目標の中に、育成したい資質・能力の一つとして、「自己肯定感を養い、高い規範意識と思いやりの心をもち、人間性豊かな生徒」が挙げられています。「自己肯定感」や「思いやりの心」、「人間性豊かな」というキーワードが本校の目指す学校像であり、生徒像なのです。

さて、こうした本校の目指す姿を踏まえて、これから新しい生活を始める皆さんに私から二つメッセージがあります。

一つめは、「挨拶から始めましょう」ということです。私たちが日頃よく使う挨拶（あいさつ）ですが、皆さんはこの「挨拶」という難しい漢字で表す言葉の語源を御存じです

か？　挨拶は、座禅をする宗派である「禅宗」」において、問答を交わして相手の悟りが深いか浅いかを試みる「一挨一拶（いちあい　いっさつ）」ということに由来し、ここから一般に問答や返答のことば、あるいは手紙の往復などのことを「挨拶」と呼ぶようになったのだそうです。「挨」（あい）も「拶」（さつ）も本来は「押す」という意味で、「複数で押し合う」意味を表す語でした。

なぜ私がここで「挨拶」を取り上げたかというと、社会の中での人間関係は、まさに「挨拶に始まり、挨拶に終わる」と実感することが実に多いからです。挨拶がきちんとできる人は、豊かな人生を送ることができるでしょうし、その逆は容易に想像がつくと思います。まさに挨拶は「基本的なマナー」であると同時に、「対人関係の潤滑油」であると言えるでしょう。昔からこの国では、道行く人々には誰にでも、たとえ見知らぬ人でも声をかけてきました。挨拶ができない者は恥とされ、一人前とはみなされませんでした。今でもビジネスの世界、親戚や近所関係など各コミュニティの中ではそういった傾向が見られます。学校でもそうですね。「おはよう」などの挨拶語やお辞儀などは、最も基本的な私たちの慣習として今後も残っていくでしょう。現在使われている「おはよう」は、「お早くから、ご苦労様でございます」などの略だと言われています。それは朝から働く人に向かって言うねぎらいの言葉でした。「こんにちは」は「今日は、ご機嫌いかがですか」などの略で、お昼に初めて出会った人の体調や心境を気遣っていました。「こんばんは」は「今晩は、良い晩ですね」の略だと言われます。また、「さようなら」は「左様ならば」の略のようです。「それならば私はこれで失礼いたします」のような意味の言葉になるのかもしれませんね。新入生の皆さんは、これから翔陽高校でたくさんの仲間や先生、地域の方々に出会います。ぜひ気持ちよく挨拶して、交友関係を広げていきましょう。

二つめは、「知性を磨きましょう」ということです。八王子市の隣の多摩市にある多摩大学大学院教授で社会企業家論が専門の田坂広志さんは、著書『知性を磨く「スーパージェネラリスト」の時代』の中で、『知能』と『知性』の違いについて、このように述べています。

「『知能』とは、『答えの有る問い』に対して、早く正しい答えを見出す能力」であり、「『知性』とは、『答えの無い問い』に対して、その問いを、問い続ける能力である」、と。

私はこれを読んで、なるほどと思いました。もちろん、『知能』も『知性』もこれからの皆さんにとって大切なものですが、私はこれからの社会では、後者の『知性』がより大切になってくるのでではないかと考えています。なぜなら、社会の中では、『答えの有る問い』よりも、はるかに『答えの無い問い』の方が多いと感じるからです。

また、知能や知性を十分に発揮するためには、前提として『知識』の習得も重要となります。皆さんがこれまで学校で学んだことは、主に『知識』が中心だったのではないかと思います。この『知識』をどのように『知能』に結び付け、さらに『知性』にまで発展させるかは、皆さんの努力と心がけにかかっているのです。

人は『知識』と『知能』と『知性』が三位一体となってはじめて、充実した人生を送るこ

とができるのでないでしょうか。特に一段とグローバル化が進み、混迷を深める現代においては、『知性』を養い、それを磨くことが最重要課題と言えます。

皆さんもこれから様々なつらい場面や苦しい立場に遭遇するでしょう。しかしそういった場合でも、『知性』を発揮して、常に明るく、否定的な言葉を使わず、プラス思考で乗り切って行きましょう。そうすれば、必ず結果はついてくるはずです。

今、わたしは二つのメッセージを皆さんにお話ししました。積極的に自分から挨拶し、知性を磨き、自分と他の人を大切にする。そんな翔陽高校の新入生である皆さんが巻き起こす新しい風に期待しています。

また、保護者の皆様には本校の教育方針を御理解いただきながら、学校との密接な連携をもとに教育活動を進めていきたいと願っています。私ども教職員一同は、お寄せいただいた大きな期待をしっかりと受け止め、全力で教育に当たる所存です。

それでは、新入生の皆さんが、ここ翔陽高校で高い志をもって、充実した高校生活を送り、大きく成長されることを祈念して式辞と致します。

令和五年四月七日

東京都立翔陽高等学校長　博田　英明